

障害者支援施設 羽合ひかり園

1 基本方針

どんなに障がいが重くても、「施設から地域の中へ」を目標とし、一人ひとりの幸せを考え、その人らしい豊かな生活が送れるよう支援する。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末 利用者数	令和４年度中の入退所状況								利用 延人員	定員に 対する 年間 平均 稼働率	年度末 利用者 数	
区 分	定員		入所 人員	退所 人員	退所理由別									
					地域移行		家庭 復帰	施設 移管	契約 解除 (入院等)	死亡				
					G H	アパ ート等								
生活介護		80	78	0	6	1	0	0	2	1	2	18,621	86.5%	72
施設入所支援		50	45	0	7	2	0	0	2	1	2	14,945	81.9%	38
3 歳	生活介護	80	88	1	11	0	0	0	2	5	4	20,027	93.1%	78
	施設入所支援	50	49	1	5	2	0	0	2	0	1	17,201	94.3%	45

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	6	16	34	58
女性	0	0	0	0	3	1	10	14
計	0	0	0	2	9	17	44	72

②施設入所支援

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	6	23	31
女性	0	0	0	0	1	0	6	7
計	0	0	0	0	3	6	29	38

3 事業の実施状況

（1）利用者支援の充実

ア 行動障がい者への支援

（ア）月に1回、精神科医の往診を受けている。また、NPO法人系の職員にアドバイザーを依頼し、オンラインにて検討会を実施した。

（イ）強度行動障がい者支援者養成研修は、基礎5名、実践4名が受講し、専門研修には、オブザーバーとして1名が参加した。また、職員3名を講師として派遣した。

イ 重度知的障がい者の高齢化支援への充実

（ア）医療機関、特に嘱託医の協力の下、利用者の健康状態の変化について早期発見に努めた。

（イ）2か月に1回母来寮の理学療法士を派遣してもらい、相談会を開催し、介護技術や福祉用具の選定についてアドバイスを受けた。

ウ 在宅の強度行動障がい者への支援

鳥取県在宅強度行動障がい者に対する在宅支援の効果検証事業において、月1回開催され

る指導者会議と個別面談に延べ20回指導者として職員を派遣した。

エ 地域貢献活動の推進

年2回湯梨浜町主催の東郷池一斉清掃に参加、また湯梨浜町自立支援協議会と鳥取県中部自立支援協議会へ参加したほか、湯梨浜町社会福祉協議会理事会に理事として、湯梨浜町人権教育推進協議会に事業所部会長として参加した。

更に、今年度から新たに鳥取県自立支援協議会権利擁護部会にオブザーバーとして参加した。

(2) 虐待防止

ア 鳥取県が実施する障がい者虐待防止研修に、基礎、分野別等、職員の状況に応じた研修にオンラインだったこともあり多くの職員が受講した。

イ 虐待防止チェックシートは7月に実施、虐待の芽チェックシートは各寮毎に2月おきに実施した。

職員への注意喚起と、支援が難しい利用者のケース会を開催し、虐待防止に努めた。

ウ ストレスチェックを9月に実施し、当園の傾向について衛生委員会で報告、今後の対応を検討した。

また、メンタルヘルス研修会については、10月18日、事業団主催の研修に2名参加したほか、3月に園主催でも開催した。

(3) リスク管理と感染症予防

ア リスクマネジメント委員会は、毎月1回定期的に実施するとともに、必要に応じて緊急リスクマネジメント委員会を開催し、再発防止策を検討した。

今年度は2日間に跨がる無届外出も発生した。新型コロナのクラスターに対応中の期間で、通常の体制と異なる対応について職員への周知が不十分だった反省点があり、今後の対応に活かしていきたい。

イ 11月から12月にかけて麦の穂寮で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生した。寮の閉鎖、日課の中止、他寮からの職員応援体制等により対応したが、園の体制に反省点も多々あり、11月28日から12月19日まで終息に約3週間の期間を要し、利用者職員に負担を掛けた。

また、1月にもなでしこ寮でクラスターが発生した。寮を跨いだ感染を防ぐことと、職員への感染を防ぐことを重点的に取り組み、なでしこ寮以外への感染は防げたが、5名の職員が感染した。

なお、食中毒予防に関しては、当園の調理師を講師として研修会を実施し、食中毒予防にも心掛けた。

(4) 経営改善

ア 施設建て替えについては、事務局とも協議の上、日中支援型グループホーム及び生活介護事業所へ転換する方針として準備を進めたが、コロナ禍による半導体不足、またウクライナ戦争による燃料費の値上がり等により建設費が高騰しており、建て替え着手（令和5年度社会福祉施設等施設整備補助金申請）については見送ることとした。

現在は、建替後の体制に極力近い体制となるよう、寮の再編成を検討中である。

イ 当園の利用者は、多床室での生活が難しい利用者が多く、施設内での個室化を進めるため、令和5年度の定員変更減に向けて入所調整等を行った。

また、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生もあったことから、寮の閉鎖やかきやきの休止等の影響により稼働率が低下した。

現在は、新規入所者の受入調整を行っているところであり、今後も退所後速やかな受入に努めていく。

令和4年度稼働率 生活介護86.5%、施設入所支援81.9%

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	5-6月	3人	15人
計		3人	15人

(2) ボランティアの受入実績

新型コロナウイルス感染症に伴い、実績なし

5 附帶事業

(1) 短期入所事業 定員 空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様 (主な受入先: 琴浦町)

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	0	0	0	0
日中一時支援事業	4	25	5	25